

北海道

碎石だより

NO 123

平成 23 年 10 月 5 日

(社)日本碎石協会北海道地方本部



岡本繁美本部長
《開催挨拶》



(社)日本碎石協会
井上勝次会長



第 1 1 回

北海道碎石技術研究会

会場：札幌東急イン
平成 2 3 年 9 月 1 4 日 (木)



辻副本部長



橘井副本部長



(社)日本碎石協会
金森副会長祝杯

乾杯！！



◆第十一回◆「北海道砕石技術研究会」開催される

第11回北海道砕石技術研究会が、

九月十四日、来賓、会員、賛助会員等百十名の参加者のもと札幌東急インホテルを会場に開催しました。

講演テーマは、賛助会員のキヤタピラーイーストジャパン株式会社「日常のクセと安全運転」、「重機の視界・死角、安全運転」について、

会員講演として旭実興業グループ（コンスA・M・G株式会社）「リサイクル産業創出事業（ガラスカレット）を利用した凍上抑制層材料の利便促進」について、同じく会員講演として北泉開発株式会社が「エンジンカの有効活用」について、特別講演として北海道電力株式会社京極水力発電所建設所が「北海道電力株式会社京極水力発電所建設工事の概要と進捗状況」について発表されました。

翌、十五日は交流ゴルフコンペを

開催し、二十三名の参加者が札幌南ゴルフクラブ駒丘コースに集い、日頃の腕前を披露されました。成績は、

優勝・渡瀬稔様（関東地方本部）
準優勝・橋井一実様（道副本部長）
第三位・原田俊之様（留萌支部長）
でした。

◇岡本本部長開会挨拶◇



本日は、第11回北海道砕石技術研究会に、多くの会員・賛助会員をはじめ、日本砕石協会から井上会長、金

森副会長、綿引技術部長、日本砕石協会関東地方本部の皆様、更には、茨城県支部の若手後継者の会「さざれし会」の皆様にご参加頂きお礼申し上げます。

また、日頃、何かとご指導を頂いております、北海道労働局安全課、北海道経済産業局鉱業課、北海道森林管理局並びに北海道経済部資源エネルギー室、更には各振興局の担当の皆様にもご参加頂きお礼申し上げます。

この砕石技術研究会は、砕石業を営む企業が日々取り組んでいる事例を紹介し、会員各企業の経営並びに技術の改善や向上に役立つことを目的としているものであります。本日の研究会が会員各企業にとって意義あるものになるよう期待するところであります。

さて、昨今の砕石業を取巻く状況は、公共事業の減少、民需の停滞、

再生骨材等の優先使用が定着し非常に厳しい経営環境にあります。

来年3月末で期限切れとなる軽油引取税課税免除措置の動向によつては、さらに経営が逼迫することになります。

砕石業を営んでいく上で事業運営経費を確保するための技術的な改善に取り組むことは大切ですが、何よりも大切な事は、重大災害を起さない取り組みであります。

重大災害の発生は企業にとつて経営を左右する大きな問題であります。

今年度は砕石業で、すでに3件の重大災害が発生しており、今一度、会社一丸となり安全対策を図って頂きますようお願いいたします。

最後に、本日、大変お忙しいところ、ご講演いただきまます講師の皆様にお礼申し上げ開会に当たつてのご挨拶といたします。

○賛助会員発表

「日常のクセと安全運転」について

キヤタピラー

イーストジャパン(株)札幌支店

山家宏之氏

山家氏は、

危険は職場

だけにある

のではなく、

家庭におい

ても危険が

潜んでいる



ことに着目し、毎日何気なく繰り返している家庭生活に潜んでいる危険から身を守るために直さなければならぬ対応策を、職場で毎日繰り返して行っている重機運転に潜んでいる危険に置き換えて考え、事故になる前に、何気なく繰り返し行っている自分の行動を見直すことで事故は防げると動機づけられた。

「重機の視界・死角、安全運転」について

キヤタピラーイースト

ジャパン(株)札幌営業センター

マーケティング営業担当

金田裕子氏

金田氏はパワーシヨベル、ホイロ

ーダを運転する際は、運転席からの

視界・死角を承知した上で、安全運

転に努めることが必要であると話さ

れた。

重機にはあらゆる箇所に取扱の

注意喚起を促すステッカーが張ら

れている。まずは、重機を運転する

前に、このステッカーの持つ意味

を十分承知

する必要が

あると話さ

れた。また、

パワーシヨ

ベル、ホイ

ールドダー



などの重機は視界の悪さ、死角の多

さを、運転席から見た写真を用いて解説された。

さらに、運転席から重機周辺で作

業している作業者との間隔をクイ

ズにして解説された。

最後に、重機災害の多くは自らの

運転操作による災害の他、重機と作

業者の接近作業による巻き込まれ

災害が多い。重機運転時は、視界の

悪さ、死角の多さを十分認識し安全

運転に徹することの重要性を説か

れた。

○会員発表

「リサイクル産業創出事業」について

(ガラスカレットを利用した

凍上抑制層材料の利用促進)

旭実興業グループ

コンスA・M・G株式会社

常務取締役 岡野道弘氏

旭実グループは碎石業のみなら

ず幅広く事業展開している。その一

つがコンスA・M・G株式会社が行っている「リサイクル創出事業」である。

ガラスカ

レットを利

用した事

業は、容器

リサイクル法

が制定さ

れた以降、



ガラス瓶は「リターナブルびん」と

「ワンウェイびん」に大別され、ワ

ンウェイびんは一度の使用で捨て

られることから、凍上抑制層材料と

して利用促進することに着目し取

り組んできている。

ガラスカレットの有効利用方法

の一つに、舗装材料としての適用が

ある。

北海道のような積雪寒冷地では

冬期の寒さが路床まで侵入して土

に霜柱を発生させる。いわゆる「凍

上」による舗装被害が発生する。路床の一部を凍上しにくい材料で置換する置換工法が対策としてとられている。

置換された凍上抑制層には、細かい粒子を多く混入しない砂や砂利などが用いられている。この凍上抑制層材料にリサイクル製品であるガラスカレットを、より一層有効活用することを目的として、凍上抑制層に適用した場合の影響について検討してきた。

ガラスカレットを道路の凍上抑制層材料として使用し、その適用性について旭川市役所土木部土木事業所構内に試験舗装を施工した。

施工結果は、ガラスカレットを凍上抑制層に用いた断面の凍結深さは、80㎜級の砕石を凍上抑制層に用いた場合より小さく、凍上も見られなかった。しかし、気温の条件、積雪等によって状況は変化し、これら

の結果如何では融解期の支持力や路面の評価等も異なる可能性もある。これらの性状を

確定するために今後も追跡調査を継続的に実施していく必要があると結ばれた。

○会員発表

「エゾシカの有効活用」について

北泉開発株式会社
社団法人エゾシカ協会
事務局長 井田宏之氏

北泉開発株式会社は砕石業の他、社団法人エゾシカ協会と連携しエゾシカの有



効活用に取り組んでいる。講演では社団法人エゾシカ協会事務局長の井田氏がエゾシカの分類、生活史、興亡の歴史、エゾシカ被害が拡大している原因と被害対策について説明された。

北泉開発株式会社が事業運営している養鹿事業部の北泉開発エゾシカ牧場の概要説明では、エゾシカが農作物や植林した木を食べてしまふ農林被害や道路に飛び出したエゾシカが引き起こす交通事故が道内全域に広がり、その被害額が年間50億円に及ぶと言われ、被害額は年々増加傾向にあるという。

北海道ではエゾシカ対策としてハンターなどによる個体数の調整が行われているが、捕獲されたエゾシカの多くが廃棄処分となつているのが現状であり、道では官民一体となつたエゾシカの有効活用が推進され、地域振興としての新たな試

みが始まった。牧場内で飼育されているエゾシカは財団法人前田一步園が被害対策の一環として阿寒湖畔の山林で餌付けした野生のエゾシカを囲いわなで生け捕りし、北泉開発株式会社が阿寒もみじ本舗が食肉用に加工していると説明し、エゾシカ肉料理の数々を紹介された。

研究会終了後の懇親会で北泉開発株式会社阿寒もみじ本舗曾我部社長から提供されたエゾシカ肉がローストビーフや中華料理に調理され懇親会に出席された皆さんに振舞われた。



＝曾我部社長様から鹿肉ご提供＝
福岡シェフによる料理実演
美味しい！と好評でした。

○特別発表

北海道電力(株)京極水力発電所
建設工事の概要と進捗状況

北海道電力(株)

京極水力発電所建設所

環境課長 榊原敦仁氏

北海道電力(株)は、全国では27番目、

道内初の

純揚水式

発電所で

発電出力

60万kwを

後志管内

京極町国



有林内で建設しており工事進捗率は67%、一号機の運転開始目標は平成26年10月としている。

榊原氏は発電所建設工事の経緯、

計画概要、揚水発電の仕組み、上部調整池、下部調整池、地下発電所の施工状況等を詳細に説明された。特に上部調整池の施工はIT施工・施

工管理システムを全面的に導入し、調査、設計、施工、施工管理まで工事のすべての段階を体系的に管理することにより、従来と比べて時間と労力の大幅な合理化と施工精度の向上を図っていると話された。

発電所工事の外、環境保全に関する取り組みについても話され、当初計画されていた上部調整池周辺が約13,000年前と推定される京極湿原であることが環境影響調査のための事前調査で判明し、調整池の位置を2度にわたり変更したことで、稀少猛禽類・クマガラの保全、エゾサンショウウオの保全、稀少植物の保全、工事中の濁水対策、継続的な環境モニタリング、水辺環境の保全について説明された。

また工事に伴って生じた裸地は、速やかに緑化を行って、法面の早期安定、濁水対策及び景観の保全に努める事、緑化にあたっては、生態系

および生物多様性を考慮して、工事区域およびその周辺に生育している郷土産植物種から種子を採取して実施していること、さらには工事に先立って剥ぎ取った表土を用いて、生育基盤を整備した後、ダケカバ、アカエゾマツなどの郷土樹種の種子を採取し発芽・育成させた実生苗を混植している実例を紹介された。最新の技術をもって建設されている水力発電所、大規模開発行為が周辺環境に及ぼす影響を極力回避・低減するとともに自然環境を保全するための地道な取り組みが山奥深くで行われている事例は、採石業にとっても参考となる貴重な講演でありました。

ケカバ、アカエゾマツなどの郷土樹種の種子を採取し発芽・育成させた実生苗を混植している実例を紹介された。最新の技術をもって建設されている水力発電所、大規模開発行為が周辺環境に及ぼす影響を極力回避・低減するとともに自然環境を保全するための地道な取り組みが山奥深くで行われている事例は、採石業にとっても参考となる貴重な講演でありました。

ケカバ、アカエゾマツなどの郷土樹種の種子を採取し発芽・育成させた実生苗を混植している実例を紹介された。最新の技術をもって建設されている水力発電所、大規模開発行為が周辺環境に及ぼす影響を極力回避・低減するとともに自然環境を保全するための地道な取り組みが山奥深くで行われている事例は、採石業にとっても参考となる貴重な講演でありました。

ケカバ、アカエゾマツなどの郷土樹種の種子を採取し発芽・育成させた実生苗を混植している実例を紹介された。最新の技術をもって建設されている水力発電所、大規模開発行為が周辺環境に及ぼす影響を極力回避・低減するとともに自然環境を保全するための地道な取り組みが山奥深くで行われている事例は、採石業にとっても参考となる貴重な講演でありました。



◇北海道国有林採石協会◇

全道研修会開催

第二回北海道国有林採石協会全道研修会が七月二十三日、二十四日の両日、洞爺湖温泉ホテル万世閣で開催されました。

初日の研修会では、社長の挨拶にはじまり、毛利専務理事から全国国有林採石協会通常総会の報告と林野庁長官への要望事項についての説明があった。

要望事項のエゾシカ食害対策では、鹿食害対策を講じた緑化の実行を行うようにとの林野庁見解があったことから、林地開発許可制度にもとづく緑化方法や植栽本数、植栽樹種について意見交換が行われた。原石価格について、以前に比べ安い単価になってきているが、本州に比べまだまだ高い価格である。プラントまで原石を輸送しなければなら

らないことから、輸送経費の控除を要望してもらいたいとの意見が出された。

土石買受申請に関する緑化保証の契約保証人については、銀行保証が認められないことから、自社の契約保証人を確認し、早めの対応を行うよう事務局から指導した。

また、労働安全については、事業実行には労働災害の防止が第一である。北海道国有林採石協会会員で死亡災害の発生はないが、会社一丸となって安全対策に万全を期すことを確認し研修会を終えた。

翌、十四日は雨の天候となったが、北海道電力(株)が京極町の国有林内に建設中の揚水発電所の上ダム調整池、発電所建設構内等を視察した。水力発電所は電気の消費が少ない夜間電力を利用し上部調整池へ揚水し、電力消費の多い昼間に下部調整池へ水を落とし発電する仕組み

みとなつている。

下部調

整池は口ツクフィ
ルダムの
形態で使
用する岩



石は現地の砕石場で、生産し使用している。道内で初めての純揚水発電所は国内で27番目の発電所となる。最新の技術力をもって建設している純揚水式発電所、完成のあかつきにもう一度視察したいと思った。その時は晴天であることを願って。

◆第一回事務局長会議を開催◆

北海道砕石技術研究会前日の九月十三日(火)、第一回事務局長会議を開催した。

会議には、岡本本部長、本部会計担当の三澤さん、各支部事務局長等

十二名が出席された。

会議では、平成二十四年度に(社)日本砕石協会が公益法人改革で一般社団法人への移行を検討しており、本部・道本部・支部の予算・決算に関する事務処理を統一した書式で行う必要があることから、経理決算について重点に打合せを行なった。

これまで本部・道本部・支部ともに新会計基準による事務処理を行っておらず、慣れるまでは時間を要するが、移行に際する重要な事務処理であり真剣な打合せであった。この他、道本部事務局長から、第一〇五回常任理事会報告、軽油引取税課税免除措置継続要望、建設資材対策北海道地方連絡会報告が行われた。十一月には本部常任理事会で一般社団法人移行について最終的な論議が予定されている。

道本部は、十二月十三日(火)に道本部・連合会合同理事会を予定しており、本部常任理事会の論議結果によつては事務局長の同席も検討する考えでいる。



「編集後記」

本年度第二号の「北海道砕石だより」を皆様にお届けいたします。第11回北海道砕石技術研究会を中心とした内容となっております。

研究会には来賓、会員、賛助会員等百名を超えるご参加を頂きました。ご協力に感謝いたします。次回の開催に当たりましては、会員の皆様のニーズにそつた技術研究会となるよう検討して参りますので、皆様のご意見をお寄せ下さい。

日ごとに寒くなり着衣も厚くなります。動きにくくなりますので安全作業に十分ご留意願います。

編集事務局一同